

2009（平成21）年度 日本英文学会九州支部編集委員会 議事録

（文責：城戸、木下）

日時：2009（平成21）年8月1日（土）午後2時から午後3時30分まで

場所：北九州市立大学 本館5階 E-512会議室

出席者：15名（編集委員12名（支部長含む）＋事務局員3名）

議長：太田一昭 編集委員長

記録：城戸光世（事務局）

議題1. 学会誌採用論文について

『九州英文学研究』第26号（支部統合号）に投稿された論文の査読結果について報告があった。投稿数は英文学9本、米文学2本、英語学1本であった。編集委員長より、全体的に厳しい評価となった旨総括があり、協議の結果、英文学部門の2本の論文が修正を条件に採用候補となった。またここ数年若い研究者の投稿論文ばかりが増えているため、中堅の研究者への投稿依頼も検討すべきではないかとの提案もあった。さらに、米文学部門の投稿数が激減しているのは、『九州英文学研究』の審査が厳しいため、代わりに九州アメリカ文学会の学会誌（KALS）への投稿を検討する人が増えているからであるとの指摘もあった。

議題2. 編集委員長・副委員長の交代について

太田編集委員長より現編集委員長の交代と任期の提案があり、分野ごとに編集長は持ち回りすることが決定された。次期編集長には、米文学部門より福岡女子大学の馬場弘利先生が、2009年11月から2010年10月までその任に当たることとなり、英文学部門からは熊本県立大学の村里好俊先生が副委員長に任命された。原則として任期は一年とし、再任も可とされた。

議題3. 編集委員の交代について

英文学部門の編集委員を長年務めていた吉田徹夫先生が編集委員を辞退し、代わって山口大学の宮原一成先生に依頼することとなった。

議題4. 大会司会者の推薦について

2009年度日本英文学会九州支部宮崎大学の大会発表予定者（29名うち、英文学13名、米文学9名、英語学7名）の司会者推薦を依頼し、結果については後ほど支部長までメール連絡することとなった。

その他

支部長より本部について報告

文科省から日本英文学会本部への厳しい指導があった旨報告があった。また大学代表から支部体制に移すという過渡期にあたるため、いまだに本部会員と支部会員が残っていることが大きな問題となっているとの報告もなされた。しかし、現在支部大会で発表したい人間はどちらも入らないといけなくなっている為、院生にとっては負担が大きいとの指摘もあった。